

No.

2023 年度 保健体育 科 シラバス

山形県立長井高等学校

科目	保健	単位数	1	週時間数	1	年次・コース・組	2年次
使用教材	新高等保健体育（大修館書店）						

目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
-----	--

身につけてもらいたい力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準  	ステップ 3 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、それらの身につけた技能を個人だけでなく社会生活について総合的に理解できるようにするとともに活用し、発展できる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に表現することができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。
	ステップ 2 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、それらの技能を身につけることができる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を目指すことができる。
	ステップ 1 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めることができる。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断することができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活について関心を持つことができる。
評価方法	ワークシート、定期試験、学習ノート、課題レポート	授業の観察、ワークシート、定期試験、課題レポート	授業の観察、ワークシート、課題レポートの取り組み

※この評価規準(目標)により評価しますが、各単元の目標や難易度によって達成度が変わってきます。

それらを考慮しながらA, B, Cの評価をし、またそれを基に5段階の評価がつけます。

### 授業の形態、方法

<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次は、生涯を通じる健康と健康を支える環境づくりの分野について理解を深める。</li> <li>・一斉授業を主とし、学習課題などについて主体的に調べたり、ペアワークやグループワークなどを取り入れる。</li> <li>・ICTや黒板の使用、ワークシートの記入等で基本的な知識を身につけることができるようにする。</li> <li>・自分で調べたい分野の探究活動を通して新聞を作成することで主体的な学びをできるようにする。</li> <li>・定期試験を通して、保健の知識及び技能を確実なものにする。</li> </ul>
---

### 担当者より

<p>生涯で最後の保健の授業です。性教育では、1年次で学んだ内容を再確認し、自分を含め大切な人を守る知恵を身につけてください。結婚生活と健康や加齢と健康、環境問題など近い将来必ず身近になってくるであろうテーマを学び、考えを深めていきます。ただ知識として身につけるだけでなく、知恵として活用できるよう主体的に学んでいきましょう</p>
--

学習計画

月	単元名	予定時数	学習の内容とねらい	実施時数
	3章 生涯を通じる健康			
4	1.思春期と健康 2.性意識の変化と性行動の選択	3	(3)生涯を通じる健康 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を学び、身に付けることができるようする。 ア生涯を通じる健康について理解を深める。	
5	3.結婚生活と健康 4.妊娠・出産と健康	2	(ア)生涯の各段階における健康 (イ)労働と健康	
6	5.家族計画 6.加齢と健康 7.高齢社会に対応した取り組み	4	イ生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができるようにする。	
7	8.働くことと健康 9.労働災害の防止 10.働く人の健康づくり	3	思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。 結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。また中高年期から高齢期を健やかに過ごすために必要な知識を身に付ける。	
8	4章 健康を支える環境づくり		(4)健康を支える環境づくり 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 ア健康を支える環境づくりについて理解を深めること。	
9	1.大気汚染と健康 2.水質汚濁・土壌汚染と健康 3.健康被害を防ぐための環境対策 4.環境衛生に関わる活動 (前期期末試験)	4	(ア)環境と健康 人間生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあることを理解できるようにする。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解する。(イ)食品と健康 食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であることを理解する。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解する。	
10	5.食品の安全性と健康 6.食品の安全性を確保する取り組み	3	(ウ)保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であることを理解する。 また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解する。 (エ)様々な保健活動や社会的対策 我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを知る。	
11	7.保健制度とその活用 8.医療制度とその活用	4	(オ)健康に関する環境づくりと社会参加 自他の健康の保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解する。イ健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。	
12	9.医薬品の制度とその活用 10.様々な保健活動や対策	4		
1	11.誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	2		
2	(後期期末試験)		(オ)健康に関する環境づくりと社会参加 自他の健康の保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解する。イ健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。	
3				
	合計時数	29		